

ウォーターフロント都市の現状調査 —ポートルネッサンス 21 計画を実施した港湾を対象にして—

Investigation into the status of the waterfront city - To subject the ports of performing the planned port 21 Renaissance -

○平松成美¹, 近藤健雄², 山本和清²

*Narumi Hiramatsu¹, Takeo Kondo², Kazukiyo Yamamoto²

Abstract: Port development in Japan, was for the industry and logistics to support the economic growth of Japan until 1975 that high growth continued. However, long-term plan of "port of the 21st century" was established in 1985, features logistics, industry, and life has been introduced well harmony, formation of port space overall came to be promoted. And richness in the spiritual aspect with the moisture in the cultural than material wealth came to be required in life surface. In order to promote the district as the base of development of port development in line with the changing times like this, "port 21 Renaissance Plan" was conducted between 1995 from 1987. I am believed that this plan has been carried out, and played a major role in local revitalization of the city port is located. In this study, it is intended to clarify the effect of "Renaissance port 21 Plan" gave city shows strategies port development in the future.

1. 研究背景

我が国の港湾整備は、高度成長が続いた昭和 50 年代までは、日本の経済成長を支えるための物流及び産業機能の量的拡充を図ることを港湾政策の目的として、港湾整備が推進されてきた。だが、昭和 60 年に「21 世紀の港湾」という長期計画が国土交通省港湾局により策定され、物流、産業、生活に係る機能がバランス良く導入された総合的な港湾空間の形成（ウォーターフロント開発）が推進されるようになった。生活面では、物質的豊かさよりも、文化的で潤いのある精神的な面での豊かさが求められ、市民に開かれたものへと変化した。こうした変化に伴い、港湾に対する要請は、これまで港湾に強く求められていた物流機能や生産機能の高度化を進めることに加え、生活機能を充実させるための整備を行うことが重要となった。このような時代の変化に即した港湾の開発整備の拠点となる地区の推進を図るため、昭和 61 年から平成 7 年にかけて「ポートルネッサンス 21 計画」が実施された。

2. 「ポートルネッサンス 21 計画」の概要

総合的な港湾空間を創造するためには、岸壁、臨港道路、緑地等近年特に要請の高まっている施設の整備を行う必要がある。このため、国土交通省港湾局では、官民の事業を計画的かつ一体的に行うための仕組みとして、昭和 61 年に「ポートルネッサンス 21 計画」を

策定した。「ポートルネッサンス 21 計画」では、港湾の開発拠点となる地区の整備を推進するため、港湾管理者が国土交通省の指導・助言を活かしながら、関係者の意見を聴いて、総合的な地区整備のマスタープランとして基本計画を策定し、この計画のもとに、港湾整備事業、民間事業等を実施し、港湾への要請に応じた港湾の整備を推進するものである。

3. 研究目的

1, 2 より、「ポートルネッサンス 21 計画」が実施されたことにより港湾が立地する市町村の地域活性化に大きな役割を果たしたと考えられる。

そこで本研究では、「ポートルネッサンス 21 計画」が都市に与えた影響を明らかにすることを目的とし、本稿では、その現状から今後の港湾整備を行っていく上での有効な方策について考察を行う。

4. 研究方法

4. 1 調査対象

平成 3 年度までに「ポートルネッサンス 21 計画」の実施対象港となった Figure 1 に示す 49 港が立地する市町村を対象とする。

4. 2 調査対象選定理由

本研究では、「ポートルネッサンス 21 計画」が実施されたことで、市町村にどのような影響を与えてきた

1 : 日大理工・学部・海建, Undergraduate students to learn Oceanic Architecture in the Faculty of Science and Technology of Nihon University.

2 : 日大理工・教員・海建, Teachers to teach in the Oceanic Architecture, Faculty of Science and Technology of Nihon University.

かを知ることが目的としているため、港湾管理者ではなく、港湾が立地する市町村を対象とする。

4. 3 アンケート調査

「ポートルネッサンス 21 計画」が実施されたことにより市町村は活性化したか、有効な事業であったかを調査する。調査項目を Table 1 に示す。

4. 4 分析

アンケートと共に、定住人口、観光入込客数、税収、商業出荷額が記載されたの過去 10 年間の統計資料（市政要覧等）を収集し、その推移を読み取りアンケートの回答と比較する。そして、「ポートルネッサンス 21 計画」が実施されたことで市町村の地域活性化与えた影響を明確にし、その結果をもとに今後の方策について考察を行う。

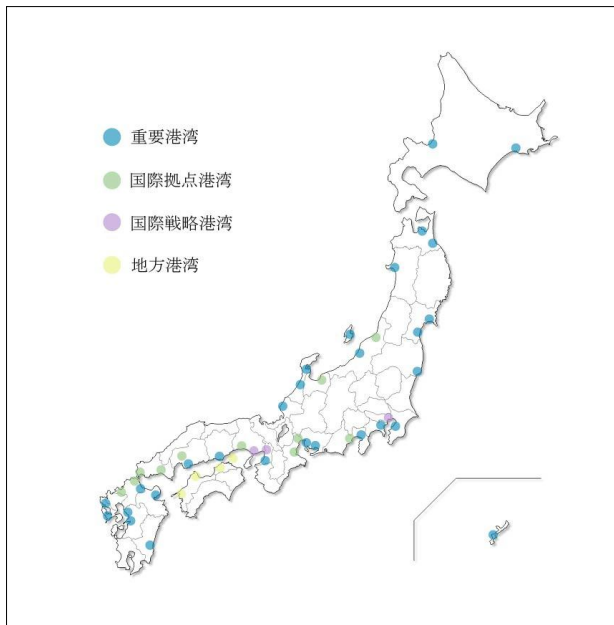


Figure 1. Implementation of the target port 21 port plan Renaissance

（調査対象市町村）北海道釧路市、北海道小樽市、青森県青森市、青森県八戸市、秋田県秋田市、山形県酒田市、宮城県石巻市、宮城県塩竈市、福島県いわき市、新潟県新潟市、新潟県佐渡市、新潟県上越市、東京都、千葉県木更津市、横浜県横浜市、静岡県富士市、静岡県静岡市、富山県富山市、石川県七尾市、石川県金沢市、福井県敦賀市、愛知県豊橋市、愛知県半田市、愛知県名古屋市、三重県四日市市、大阪府大阪市、兵庫県神戸市、兵庫県姫路市、香川県坂出市、岡山県玉野市、広島県糸崎市、広島県広島市、山口県周南市、山口県下関市、香川県三豊市、広島県尾道市、愛媛県八幡浜市、福岡県北九州市、福岡県博多市、長崎県佐世保市、長崎県長崎市、熊本県天草市、熊本県宇城市、

熊本県八代市、鹿児島県鹿児島市、宮崎県宮崎市、大分県大分市、福岡県京都郡苅田町、沖縄県那覇市 以上 49 市町村

Table 1. Item of the questionnaire survey

Asking: I will ask you about the effect of the "port 21 Renaissance Plan" was implemented.	
Question items	Answer choices
1.Population or increased?	Yes/No
2.Tourist arrivals included input or increased?	Yes/No
3.Tax revenue or increased?	Yes/No
4.Commercial shipments or increased?	Yes/No
5.Green area of the city or increased?	Yes/No
6.Barrier-free universal design and maintenance of the city or increa	Yes/No
7.Vibrant Did out in the city?	There was a very effective/There was little effect/Had little effect /Had no effect at all/There was a negative effect
8.Did valid business for the city, "port 21 Renaissance Plan"?	There was a very effective/There was little effect/Had little effect /Had no effect at all/There was a negative effect

5. 調査結果の考え方

まず、Table 1 に示す調査項目の 1 から 4 に関しては「ポートルネッサンス 21 計画」を実施したことにより、人口、観光入込み客数、税収、商業出荷額、各々が増加したという回答が得られれば、市町村の商業に与えた効果を実感したと考えられる。そして、それらの過去 10 年間の統計が記載された資料（市政要覧等）から推移を読み取り、アンケート調査結果と同様に増加していれば市町村の商業の発展に有効であったと言える。だが、昭和 60 年代から物質的豊かさに加え、文化的で潤いのある精神的な面での豊かさが求められるようになった。そのため、商業の発展だけでなく、調査項目の 4 と 6 に示した緑地面積やユニバーサルデザインの増加を市町村が実感していれば、市民のための精神的な豊かさが向上したと考えられる。以上の調査項目みを満たした上で、調査項目 5 と 6 に示したように市の活気に効果を実感し、「ポートルネッサンス 21 計画」が市にとって有効な事業であったかという回答が得られれば、「ポートルネッサンス 21 計画」は市町村の地域活性化に大きな役割を果たしたと言える。

調査結果の予測としては、「ポートルネッサンス 21 計画」が変遷する港湾への要請に対応するための事業であったことから、港湾の整備が推進されたと共に市町村の商業や市民の生活には良い影響が及び、地域活性化に効果があるものであったと考えられる。

6. 参考文献

- [1] 藤田武彦：「港湾における民活事業について」、港湾行政の概要、昭和 62 年度版
- [2] 宮崎洋一：「港湾における民活事業について」、港湾行政の概要、平成 4 年度版
- [3] 港湾局 - 国土交通省ホームページ